

特集：たまご歳時記

日本人は世界でも有数のたまご好きな国民です。どんな料理にも合い、経済性や栄養価に優れている食品としての卵の価値を見直すために、各地ではたまごに関するいろいろな行事が行われています。当協会の国産鶏卵普及啓発委員会が主体として毎年開催している「いいたまごの日」も本年で6回目になりますが、これらの各地で行われている卵関係の主要な行事をご紹介します。

(*印は今年のみ開催が決定されているもので、それ以外は記念日として毎年開催されています。)

たまご歳時記 (たまごが主食材の季節行事と卵関係の主要行事)

1月	正月 (伊達巻、玉子焼き)
2月	節分 (恵方巻き)
3月	ひな祭り (ちらし鮭)
4月	イースター (イースター・エッグ・ロール)
6月	オムレツの日 (6月2日)、たまニコ甲子園 (6月11日) *
8月	親子丼の日 (8月5日)、エッグの日 (8月9日)
10月	たまごかけご飯の日
11月	いいたまごの日 (11月5日)
12月	クリスマス (クリスマスケーキ)

①いいたまごの日 (11月5日)



- ・日本養鶏協会主催、今年で6回目。
- ・平成22年に全国の養鶏・鶏卵関係の中央12団体からなる全国鶏卵消費促進協議会の合意のもとに制定された。たまごの良さを広く社会にアピールして、一層の消費拡大をはかる日
- ・1 (い) 1 (い) 0 (たま) 5 (ご) という語呂合わせ
- ・卵に関するエッセーコンテスト及び表彰式を開催。エッセーコンテスト入賞者には賞金以外に、記念メダル、1年分の卵が副賞として贈られる。
- ・昨年度は表彰式を東京ガス銀座スタジオで行い、メディアを集めての料理教室や賞味期限に関する解説等も行った。
- ・今年はネットを使ったイベントも検討中

上記のロゴイラストは愛くるしい鶏キャラクター・卵との組み合わせ図形として商標に登録され、販促ポスターやカタログ、卵パックラベルなどへの使用が進んでいる。

②オムレツの日 (6月2日)



6月2日はオムレツの日、
6月はオムレツ月間です。



- ・オムレツの会主催、今年で5回目
- ・たまごで愛情を包み込んだ料理であるオムレツを通して、家族愛と健康を育む日
- ・0(オ)6(ム)0(レ)2(ツ)の語呂合わせから
- ・楽天レシピサイトで、「オムレツレシピ募集」キャンペーン実施し一般消費者が参加
- ・会員各社のラベル上に「6月2日はオムレツの日」を明示しての全国的宣伝を行っている
- ・オムレツの会としての記念イベントを会員とメディアを集めて開催
- ・「6月2日はオムレツの日」、「6月はオムレツ月間」を、楽天レシピサイトや記念イベントを開催することにより、認知度UPをはかり、オムレツ中心に卵料理の普及促進を行う。

③たまごニコニコ甲子園 (6月11日)



- ・日本卵業協会主催。今年、初めて開催
- ・たまごの素晴らしさをより多くの方に知って頂こうとたまご料理にスポットを当てて味やアイデアを競うたまご創作料理コンテスト
- ・全国を6エリアに分けて各エリア代表1作品が6月11日に名古屋ポートメッセで開催されるIPPS(国際養鶏養豚総合展)会場にて決勝大会を行う。
- ・優勝者には賞金10万円とたまご1年分(730個)

④親子丼の日 (8月5日)



・鶏肉と卵を使った丼や新メニューを提案または募集して、親子で一緒にお料理を作ってもらい親子の絆を深めて頂きたいという趣旨で、2012年から始めた。

・この日は8月5日を085『オーヤーコ』と読んだ親父ギャグから由来している。

・関西鶏卵流通協議会と大阪府食鳥肉販売業生活衛生同業組合共催で、一般消費者向けキャンペーンを実施するとともに、イベントを開催。

- ・昨年はインパックラベルやチラシにより親子丼鉢大小50セット、親子丼食材100セットが当たるキャンペーンに21,000名の応募があった。また、2,000人規模の保育園での昼食会を実施。
- ・今後の活動としては毎年8月5日前後に親子丼グッズや食材セットが当たるキャンペーンを実施し、たまごと鶏肉のコラボメニューで親子の絆を深め鶏卵の一層の普及を図っていく。

⑤エッグの日 (8月9日)



・沖縄県養鶏協会は夏場に伸び悩む沖縄県産の卵の消費促進を図ろうと、2008年に8月9日を「エッグの日」として制定し、県の南部、中部、北部で順次イベントを開催している。たまごに対する正しい知識を県民消費者の皆様により広くアピールし、消費拡大に結び付けることを目的とし、「まーさん印の県産卵を、1日2個食べよう。」と毎回呼びかけている。

・この日のいわれは、エッ(8)グ(9)の語呂合わせだが、日本だけにとどまらず、世界的な目線をもつての記念日となっている。たまご特売、たまごについてのアンケート実施、オリジナルクリアファイルの配布、ラジオ企画放送(たまごについて)などを行って、盛り上げている。今後はさらに消費者への知識啓蒙をはかり、消費拡大につながるイベントを開催していきたい。

⑥たまごかけご飯の日（10月30日）



- ・「たまごかけご飯」をキーワードに日本の古き良き食文化やふるさと、家族愛などを考えるきっかけとなる日をと、島根県雲南市の「日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会」（旧「日本たまごかけごはん楽会」）が制定。

- ・第1回日本たまごかけごはんシンポジウムが開催された2005年10月30日から始まった。この時期はたまごの品質が良いと言われており、また美味しい新米が出回る時期でもある。
- ・日本たまごかけご飯シンポジウムを毎年10月最終日曜日に開催している。
- ・全国からの出店者が自慢のたまごかけご飯を会場で販売し、来場者の投票により「1番のたまごかけご飯」を決定する『TKG チャンピオンシップ』をメインイベントとして開催。

（世界でのたまご関係イベント）

米国 イースター・エッグ・ロール

キリスト教の復活祭を祝う春の伝統行事としてイースターがある。卵は復活のシンボルとして、イースター・エッグを探すという行事が欧米では一般的であり、特に米国ではホワイトハウスでこのイースターを祝う事が行事として行われており（イースター・エッグ・ロール）その際には米国鶏卵協会（AEB: American Egg Board）が大統領夫人にイースターの記念卵（実際は卵型をした美術品）を贈ることが毎年行われている。イースター卵の記念品は今年で38回目になるが、大統領夫人であるミシェル・オバマさんに、米国の鶏卵生産者を代表してAEB会長のポール・サウダー氏と専務理事のジョアンヌ・アイビー氏より贈呈された。この贈呈式にはオバマ大統領も昨年同様、出席した。今年のホワイトハウスにおけるイースター・エッグ・ロール（4月6日）は137回目となったが、AEBは14,000個以上のゆで卵と色つき卵を寄付し、35,000以上の人々が集まった。

このホワイトハウスでのイースター・エッグ・ロールは米国民に卵の良さをアピールできる大きな機会であり、AEBの年中行事でも大きなものとなっている。



昨年のイースター、AEB 関係者とオバマ大統領夫妻



昨年 AEB よりホワイトハウスに贈られたイースター記念卵

【農政関係】

・ TPP（環太平洋経済連携協定）関係

○ 4 月 16 日に米議会に対して超党派により、大統領貿易促進権限 (TPA) 法案が提出されました。この法案の可決に対しては少なくとも数週間はかかると言われていますが、米国内での TPP 参加意向が盛り上がっていることが窺えます。

○ 4 月 28 日の日米首脳会談を前に、4 月 19-20 日と東京で甘利 TPP 担当相と米通商代表部フロマン代表との閣僚協議が半年ぶりに行われました。

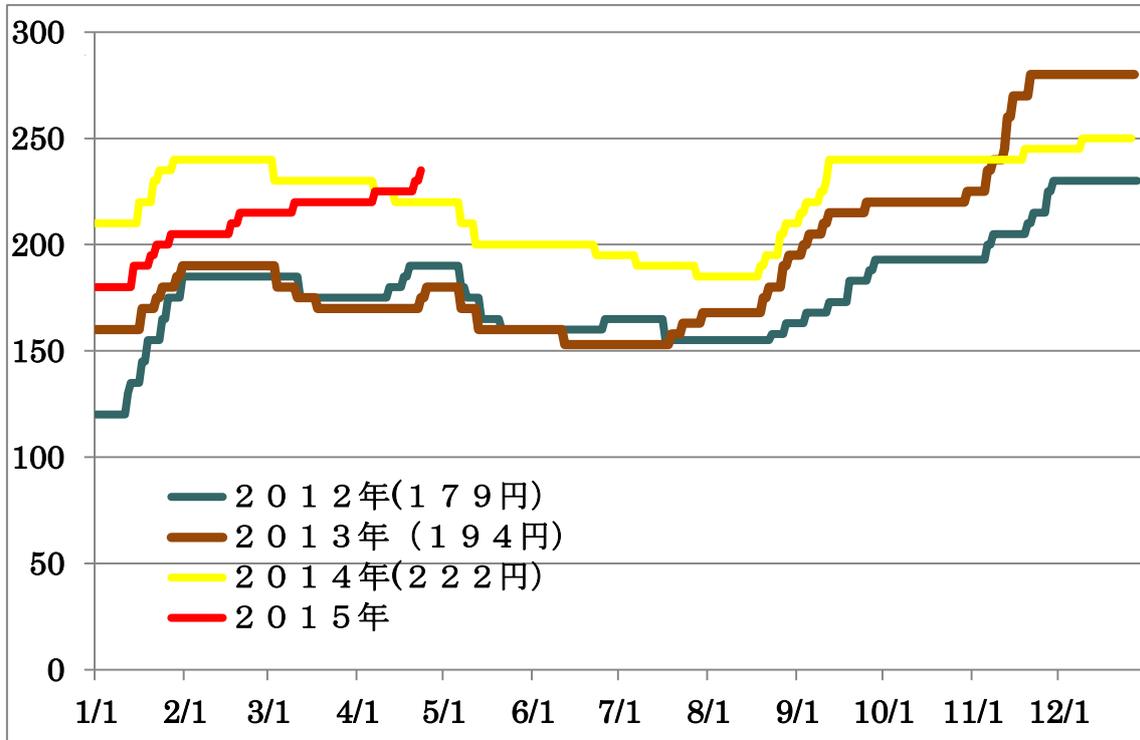
○ TPP 交渉が煮詰まってきたおり、当協会も畜産ネットワークの一員として、4 月 23 日に自民党の森山、西川先生をはじめとした主要な先生方に陳情しました。

【相場動向】 過去 10 年間の 3 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	181	190	175
平成19年	183	195	175
平成20年	195	195	195
平成21年	180	190	170
平成22年	177	185	170
平成23年	217	260	185
平成24年	178	185	175
平成25年	175	190	170
平成26年	230	230	230
平成27年	219	220	215
平均値	194	204	186

平成 27 年 3 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 219 円となりました。これは昨年の 230 円よりは 19 円安いものですが、先月の平均値 209 円よりも 10 円たかくなりました。昨年までの過去 20 年間で 3 月が 2 月より高かったのは 6 回ありますが、その内 5 回までの年の年間平均値は前年平均値より高くなっており、**今年の年間平均値が昨年より高くなる可能性を示唆**しています。

【鶏卵相場推移 2012年～2015年 暦年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



3月が2月よりも高く、4月が3月よりも高いという極めて強い相場となっています。

【鶏卵関係主要計数】2月までの1年間計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
平成26年	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	本年	前年
3月	8,202	102.8%	493	101.5%	821	99.1%	230	175
4月	8,244	99.7%	463	100.0%	784	95.4%	223	172
5月	8,849	106.7%	475	99.8%	856	98.7%	204	164
6月	8,838	106.5%	447	103.2%	850	103.0%	199	155
7月	8,866	116.8%	450	104.4%	809	100.6%	190	160
8月	7,280	102.2%	426	100.1%	801	102.4%	192	175
9月	8,831	105.5%	451	104.5%	826	107.2%	231	211
10月	8,497	109.9%	488	105.2%	819	96.4%	240	220
11月	8,136	98.7%	454	97.8%	843	101.2%	248	259
12月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
1年間小計	101,325	105.3%	5,592	101.4%	9,872	100.1%	215	203

雛餌付羽数が昨年 5 月より増加傾向になっていますが、増えた雛が採卵羽数増加→鶏卵生産量増加という傾向に現れているとは思えない様です。増加した雛はどこに行ったのでしょうか???

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①平成 25 年度補正予算事業

(1) [国産畜産加工原料緊急確保事業](#)

- ・食品製造業者 5 社が採択され総事業費約 9 億 1,800 万円(補助金額約 4 億 1,200 万円)の事業が完了しました。

(2) [畜産収益力向上緊急支援リース事業](#)

- ・今年度は、34 社、89 機種が採択され、補助金ベースで約 2 億 3,200 万円の導入実績となっています。機械の導入は終了し、全ての補助金がリース会社に対して精算払いされる予定です。

②平成 26 年度予算事業

(1) [鶏卵価格差補填事業](#)

価格差補填事業の今年度実績

数量単位：トン

月	平成26年度		平成25年度		前年対比
	人数	販売実績数量	人数	販売実績数量	
4月	1,007	174,712.773	1,104	180,797.289	96.6%
5月	1,007	181,142.362	1,104	185,070.271	97.9%
6月	1,007	171,968.767	1,104	176,177.634	97.6%
7月	1,007	177,272.465	1,104	178,489.762	99.3%
8月	1,007	173,189.482	1,104	176,530.141	98.1%
9月	1,007	173,567.237	1,104	173,994.685	99.8%
10月	1,007	179,743.624	1,104	183,565.842	97.9%
11月	1,007	174,990.350	1,104	180,238.108	97.1%
12月	1,007	186,627.330	1,104	187,856.563	99.3%
1月	1,007	176,005.048	1,104	178,174.390	98.8%

ちなみに事業参加者との契約数量(月当たり/トン)は以下となっていました。

平成 25 年度 164,822 トン 平成 26 年度 160,792 トン

(注) 人数は平成 26 年 4 月 1 日現在の契約者数

- ・3 月の標準取引価格 **209.94 円/Kg** (補填 なし、今年度累計 **4.995 円**)

年間平均の標準取引価格は **208.51** 円となりました。

(2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業

・3月30日に本年度第4回目の委員会を開催して、27年度の事業の予定について具体的な検討が行われました。従来の紙媒体から、今年度はネットを利用しての普及啓発を行っていく方向となりました。

③平成 26 年度補正予算、平成 27 年度予算事業

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

52 億円

畜種ごとの特性に応じて畜産経営の安定を支援し、意欲ある生産者が経営の継続・発展に取り組める環境を整備するものです。鶏卵価格差補填事業と成鶏更新・空舎延長事業により、鶏卵生産者を支援します。

(2) 畜産収益力強化緊急支援事業対策（畜産クラスター事業）

276 億円

平成 26 年度補正予算で全畜種計 120 億円（補助金ベース）が措置されました「畜産収益力強化緊急支援事業」につきまして、非常に多くのご要望が寄せられました。日鶏協取りまとめ分として、最終的に約 6 億円（補助金ベース、事業費としては約 12 億円）の割り当てを ALIC より受け、交付決定の通知を受けました。現在事業参加生産者の方々と具体的な事業の進め方について調整中です。

(3) 国産畜産物の新たな市場獲得のための技術開発促進事業

7 億円

平成 26 年度補正予算で全畜産物分野における国産シェアの拡大に向け、国産畜産物の加工原料への利用を促進するための技術開発を支援する事業です。日鶏協として 4 社よりの応募を受けましたが、選考され交付申請がなされる見込となっています。（支援：半額）

(4) 畜産物輸出特別支援事業

3 億円

平成 26 年度補正予算でオールジャパンの体制で畜産物の輸出拡大に取り組む団体を支援する事業です。日本畜産物輸出促進協議会経由で鶏卵輸出準備分科会に対して輸出促進のために約 28 百万円の予算が出ており、ロゴマーク策定や輸出先国調査等を行う予定です。

④理事会

3月26日に理事会が開催され、平成27年度事業計画、収支予算等が検討されました。

⑤ 全鶏会議との意見交換会

3月27日に全鶏会議との意見交換会を行い、当協会の事業内容と鶏卵輸出準備分科会に対する現況説明を行いました。

⑥鶏卵輸出準備分科会

- ・3月に鶏卵統一ロゴマーク検討委員会を2回開催し、「日本のたまご」を表現するロゴマーク、キャッチコピーを策定しました。4月24日に幹事会を行い、輸出先国調査等の今年度事業についての検討を行います。
- ・現在の会員数27法人（6団体、21事業者）

海外情報

(1) ドイツ：有機の卵が増え、小さなコロニー養鶏が減少

ドイツ食品・農業省によると2014年のドイツ人一人当たりの鶏卵消費量は14.4Kgとなり、これは231個であった。国全体では187億個となり、重量では116万トンとなる。このうち、家計消費は約半分となっている。飼育方式は63%が鳥小屋システム（aviary system）、25%がフリーレンジ、10%が有機となっている。

2010年に77%を占めていたコロニーシステムは現在では殆ど無視される様なシェアまで落ちた。それに対して有機は2010年対比40%も増加している。2014年にドイツでは854千トンの鶏卵生産がなされた。（これには孵化用も含む）

暫定的な数字であるが2014年の138億個という生産量は前年対比0.7%の増加となる。昨年ドイツは424千トンの鶏卵を輸入したが、これは2000年の293千トンより45%も多いものであった。鶏卵輸出も増加傾向にある。2000年には72千トンであった輸出が昨年には123千トンとなっており、70%の増加となっている。

（ポータルサイト 4月7日版）

(2) 英国：2014年の鶏卵消費量は若干の増加、1980年代後半以来の高レベル

英国鶏卵産業協会 (BEIC/British Egg Industry Council) は、2014年の英国の鶏卵消費量は前年対比2%増の117億6千万個となり、国民一人当たりでは184個になると発表した。BEICによると2014年の英国の鶏卵生産量は97億6千万個で、輸出は1億34百万個、輸入は18億6千万個と報告されている。53%が小売店で販売され、外食用が24%、加工用が23%となっている。飼育方式は52%がエンリッチケージ、45%がフリーレンジ、3%が平飼いとなっている。2014年の採卵鶏羽数は未発表だが、2013年には33百50万羽となっていた。

(ワットアグネット 4月15日版)

(3) 米国：サルモネラ事件によりデコスター父子が3か月の収監刑に

2010年に起こった数州に渡る鶏卵によるサルモネラ事故について、クオリティ・エッグ社の前の経営者である「ジャック」・デコスターとピーター・デコスター父子に対して、3か月の収監という判決が4月13日にアイオワ州スーシティの連邦裁判所で下された。

米国疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) によるとこのサルモネラ事故により1,939人が罹患したと報告されているが、この鶏卵が販売されたことにより最多では56千人が罹患した可能性があった、としている。またこのサルモネラ事故により5億5千万個の卵が回収された。

両者に対しては10万ドルずつ、またクオリティ・エッグ社に対しては680万ドルの罰金が課せられている。

(ワットアグネット 4月14日版)

(4) 米国：鳥インフルエンザでアイオワ州の農場で530万羽殺処分

4月20日にアイオワ州オスセオラ郡の養鶏場で鳥インフルエンザが確認され、530万羽が殺処分されることとなった。(フードマーケットコム 4月21日版)

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内 (5階)

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2015年4月24日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)